



事業者：株式会社農業総合研究所

計画概要

- ・新たな流通事業※の展開と物流拠点整備に伴いトレーサビリティシステムを整備し、流通商品の二酸化炭素の排出量の算定（見える化）を推進する。
- ・二酸化炭素排出量の算出が可能となる商品に関しては、その情報にアクセスできるQRコードを商品に貼付することで、関係者及び消費者の農産物の流通過程における環境負荷に係る意識の啓蒙を行う。

目 標

2030年までに、年間2,000tの商品で二酸化炭素排出量の見える化を行う。

食料システムへの寄与

流通過程における二酸化炭素排出量の見える化を促進することで、環境負荷の低減に係る取組に対する消費者の選択に寄与するとともに、サプライチェーンの脱炭素化に向けた取組、及び持続的な食品の供給体制の確立に貢献する。

※レベニューシェア型農産物流通事業：AIなどを用いた需要予測に基づき、生産者側と小売側のマッチングを実施。それに基づき、売上収益を生産者を含めたサプライチェーン関係者間で、あらかじめ定めた料率に基づいて分配する仕組み。

計画のイメージ

トレーサビリティシステムの導入



(2025年12月17日認定)